



# ストップ！ 憲法9条 改憲

私たちは戦後74年間、憲法9条を守り、  
世界の紛争＝戦争に加担せず、  
「平和と文化の国」として幸せに暮らし、  
世界から尊敬されてきました。



七十年一人も殺し殺されず栄えし国の誇りぞ高し 禎一

世界の尊敬を集めているのは、昨年12月4日 アフガニスタンで、テロの銃弾に倒れた 医師 中村 哲氏です。

中村氏のご経歴や活躍の足跡は、別紙でご紹介していますが、1989年以降、内戦と旱魃で悲惨を極めるアフガニスタンで、医療活動のかたわら、井戸堀りと用水路建設を主導され、東京23区の3倍近い砂漠の緑化を成し遂げ、65万人の難民を救われました。アフガンの人たちから『歩く日本憲法』として親しまれ、日本へ帰還される棺を大統領が担がれ、日本では訃報の翌日 平成上皇ご夫妻が、心からなるご弔意をご家族に伝えられ、日本政府も感謝状贈与と叙勲を行いました。

中村 哲さんの言葉

武力で平和は  
守れる  
という  
迷信に  
惑わされなびて



9条は歴史的遺産

中村哲さん

「9条は歴史的遺産」

中村哲さん（1931年～）は、アフガニスタンで医療活動に従事し、65万人の難民を救った。日本では「歩く日本憲法」として親しまれ、平成上皇ご夫妻がご弔意を伝えるなど、国内外から尊敬を集めた。

武器など絶対に使用しないで、  
平和を具現化する。

それが具体的な形として存在しているのが  
日本という国の平和憲法、  
9条ですよ。

それを、現地の人たちも  
分かってくれているんです。

だから、  
政府側も反政府側も、  
タリバンだって我々には手を出さな  
むしろ、守ってくれているんです。  
9条があるから、海外ではこれまで  
絶対に銃を撃たなかった日本。

それが、ほんとうの日本の強味なんですよ。



## 中村 哲

（元駐ハンガリー大使館参事官）

戦争の実態を知らぬ  
指導者たちが勇ましく吠え  
戦の準備をする日本。  
危機が身近に、  
祖国が遠くになってきた。



中村さんの警告を無視して、

日本の政権指導者は、憲法をどの様に変えようとしている  
のでしょうか？

改憲案の中心は、憲法9条『戦争の放棄』です。

その内容は

9条の第1項『戦力の行使や威嚇の禁止』

第2項『戦力の不保持』はそのまま残しておいて、

『自衛隊の存在を明記すること。』です。

改憲派は、国民の信頼を得ている自衛隊の存在を『明記』する  
だけで、『現状は何も変わらない』と表明しています。

「何も変わらない」のなら、何故改憲するのでしょうか？

隠された「本音」は次の2点です。

自衛隊を憲法に明記すると

(1) 同盟国アメリカと一体となって

『集団的自衛権』を堂々と行使  
できる。

自衛隊を、世界のどの地域の

戦闘へも派遣できる。

(2) 国会の審議を経ず、閣議決定

だけで軍事力を行使できる。



一つ間違えれば、日本は『戦争できる国』へ歩み出します。<sup>3</sup>

先の大戦の犠牲者(戦没者230万・市民80万人) 310万人の  
無念を偲び、こんな『改憲』を許してはなりません。

9条は変えず自衛隊書き加え『集団自衛』は歯止め無きまゝ、  
海外で「戦死」の現実迫り来て隊員家族の不安を想う 禎一

